

会長の挨拶 39 一職種一会員制の本質 ―その6―

貸与説に対して、ガイ・ガンディカーで説かれている大使説の方がはるかに積極性をもった説であるといえる。即ち、職業分類に基づいてアクチヴ・メンバーに選ばれた者はロータリーがその同業者に派遣した大使たる役割を果たさなければならないと説くものである。(ガイ・ガンディカー『ロータリー通解』小堀憲助訳 P.12 参照)

一職種一会員制の本質に関する問題は以上の説明をもって全部完了するのである。しかし、我が国や東南アジア諸国のロータリアンの間では一職種一会員制に関して、上述の点と若干アスペクトを異にした理解が行われているので、これについて触れておかなければならないだろう。即ち、それらの国々においては、一職種一会員制を以て、エリート選出の原則と考えるのである。

その上ロータリーが特定職種の代表者をもってその会員を構成するという考え方から、これを無意識にエリートと考えることの可否の問題と、エリートという言葉のもつニュアンスの問題が複雑に交錯して、事態は一層混沌としているように思われる。そこで問題点の整理からとりかかることにしよう。

先ず第一に、ロータリアンをもって特定職種の代表と考えることが、代議制の立場から考えられているのなら、それは絶対に事実と反することである。なぜなら、ロータリアンがロータリー・クラブに入会する前提として、当該職種の職業人の総意の表明はいかなる意味においてもなされてはいないからである。したがって、代議制的意味合いにおいては、ロータリアンは特定職種の代表たりえない。次回へ続く。

(小堀憲助著『ロータリー思想の理論構造』より引用)